

町田市医師会
町田市民病院

共催

市民公開講座

テーマ

ご家族との人生を有意義に過ごすために

～在宅医療や緩和ケア病棟を上手に利用しよう～

プログラム及び講演者紹介

日時

平成26年6月14日（土）
午後2時～4時（午後1時30分から受付）

場所

町田市民病院 南棟3階講義室
町田市旭町2-15-41

見学

町田市民病院 南棟10階緩和ケア病棟
申込時受付 30名（抽選）※未就学児不可

展示

在宅医療機器展示（1F）

プログラム

町田市民病院 南棟3階講義室

司会 緩和ケア病棟看護師長 嵯峨 幸恵

開会挨拶 14:00

川村 益彦 町田市医師会長

第1部 14:05~14:45

在宅医と病院の上手な利用の仕方 ~ご家族と有意義な時間を過ごすために~

小口 朝彦 在宅療養支援診療所 サン メディカルクリニック院長

~休憩 10分間~

第2部 14:55~15:10

医療機関の連携について ~そもそも連携ってなに?~

西原 佳子 町田市民病院 医療相談室 担当係長

第3部 15:10~15:30

緩和ケアとは? ~市民病院緩和ケア病棟の紹介~

川崎 成郎 町田市民病院 外科 緩和医療専任担当部長

質疑応答 15:30~16:00

閉会の挨拶 16:00

羽生 信義 町田市民病院 副院長

その他

緩和ケア病棟（南棟10階） 見学会 16時5分~16時30分
申込時受付 30名（抽選）

在宅医療機器 展示ブース

ご挨拶（町田市民病院から）

この度、初めて町田市医師会と町田市民病院の共催で市民公開講座が開催されることになりました。今回は「ご家族との人生を有意義に過ごすために」というテーマの下、「在宅医療」、「医療連携」、「緩和ケア」というキーワードを取り上げます。

町田市は典型的な首都圏居住地区であり、今後の高齢社会の進展をいかに乗り越えていくかの問題解決が問われています。

高齢者医療においては、一つの医療機関で完結することは難しくなりました。こうした時代の変化の中で求められている医療の形が「地域完結型医療」です。「地域完結型医療」とは、**病院間の連携、病院と地域の診療所との連携、診療所間の連携、医療と介護施設との連携、訪問診療、訪問介護、訪問リハビリ**などを組み合わせ、市民が住み馴れた街で、高度医療から在宅医療までを安心して受けることのできる街づくりです。町田市では、医師会がリーダーシップをとって地域完結型医療に取り組んでいます。

戦後、まだ医療資源の乏しかった時代は、病院で最期を看取られて良かったといわれる時代がありました。しかし、医療資源が充実して、医療のあり方が多様化したいま、「病院こそが最高の療養場所」とは言えません。なぜなら、ひとりひとりに価値観の違いがあるように、医療を受ける人によって最良の医療が変わってくるからです。

今回の講座では、在宅医療・医療連携・緩和ケア病棟について理解を深めていただき、大切な方との療養時間の過ごし方について考えていただくきっかけになれば幸いです。



羽生信義（はにゅう のぶよし）

現職 町田市民病院副院長・外科部長、東京慈恵会医科大学客員教授
略歴 1978年慈恵医大卒業
1987年～1989年米国ウィスコンシン医科大学留学（消化管運動の研究）
1993年～1996年静岡県富士市立中央病院外科部長
2000年慈恵医大外科学講座准教授
2004年町田市民病院外科部長
2009年より現職
NPO法人CIMネット会長、町田市医師会理事

ご挨拶（町田市医師会から）

この度、初めて町田市民病院と町田市医師会の共催で市民公開講座が開催されることになりました。今回は市民病院のご提案により「在宅医療」、「医療連携」、「緩和ケア」をキーワードに取り上げていただきました。これは医師会にとって重要な問題であり、これまで以上に市民病院との連携が深まると期待しています。

日本は高齢化が進み65歳以上の人口は3000万人、75歳以上の後期高齢者は1500万人を超えています。町田市でも65歳以上の方は2015年には10万人を超え、2025年には約11万人、高齢化率25.5%になると予測されています。高齢者の方はいくつかの病気をもたれ、介護が必要な方、通院が困難な方が多くなってきます。また、現在では病院で亡くなる方が80%程度になっていますが、自宅での死を希望される方も増えています。このような状況では在宅での療養が必要となり、看取りを含めた在宅医療が求められています。また在宅療養では病気を治す医療を主眼とせず、支える医療が必要とされ、さらに生活全般をも支えていく事が必要です。今、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けるために、住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体的に行う仕組み、「地域包括ケアシステム」が求められています。そのためには医師会、歯科医師会、薬剤師会をはじめ介護・福祉・行政を含めた連携が必要であり、町田市医師会は行政とも協力し「町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト」を立ち上げ、町田市における地域包括ケアシステムの構築を目指しています。

今回の公開講座で在宅医療、医療連携、緩和ケアについてご理解いただき、住み慣れた町田で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けるための参考にしていただければ幸いです。



川村益彦（かわむら ますひこ）

現職 医療法人社団 幸益会理事長
町田市医師会 会長
略歴 1978年慈恵医大卒業
1989年川村クリニック院長
2001年医療法人社団幸益会理事長
2001年町田市医師会理事
2011年町田市医師会会長

在宅医と病院の上手な利用の仕方

～ご家族と有意義な時間を過ごすために～

平成23年4月、町田市に「在宅療養支援診療所」を開設させていただきました。

自分が住み慣れた家は良いものです。

旅行から、仕事から、あるいは入院先の病院から、自宅に戻って来るとホッと一息つけます。どこに何が置いてあるのか、どう歩けばトイレに行けるのか、たとえ夜中でも手探りで歩いて行けるほど頭に入り、体に馴染んだ場所です。

聞き慣れた家族の声、漂ってくる料理の臭い、周りのごくありふれたもの、自宅は実は自分が一番癒される空間でもあり、病気入院中に、「早く家に帰りたい」、そう思われた方もたくさんおられると思います。

在宅療養支援診療所は、文字通り、病院から退院された患者さんが、自分の家で如何に自分らしく生きていくのか、その在宅療養を支援するために存在する診療所です。

種々の癌など重篤な病気の治療を病院で積極的に希望される方、糖尿病などの慢性疾患を抱えながらも通院出来る方は、地域の基幹病院や、身近なかかり付け医を受診していただく事が最も良い方法だと思います。しかし、治療を継続しながらも、次第に病状の悪化、体力の衰え、年齢、その他、様々な理由で医療機関への通院が困難になってきた時に、医師が患者さんのお宅にお伺いし、必要な医療支援を行う事も在宅療養支援診療所の大切な役割です。

その際、医師一人で全てを解決出来るわけでは無く、たくさんの関連職種の方々との連携も必要になってきます。また、病院との連携も欠く事は出来ません。

膨れあがる医療費、人口の高齢化と共に、在宅医療の重要性が認識されてきました。

サンメディカルクリニック（在宅療養支援診療所）が関わった様々な患者さんの事例を通じて、在宅医療の雰囲気を感じ、自分にとってどんな在宅療養が可能なのか、それを考えるきっかけにいただければ幸いです。



小口朝彦（おぐち あさひこ）

現職 サン メディカルクリニック院長
略歴 1986年東京医科大学卒業
1986年関東通信病院（NTT東日本関東病院）内科研修医
1989年自治医科大学循環器内科入局
1992年～1994年米国Emory大学循環器内科客員研究員
1999年自治医科大学循環器内科学講座助手
2004年横浜総合病院内科部長
2006年聖路加国際病院附属クリニック
2011年サン メディカルクリニック開設



サン メディカルクリニック

町田市成瀬駅前に、「サン メディカルクリニック」を開設させていただきました。

これからの高齢化社会を踏まえ、「出来るだけ自宅で過ごしたい」、「最後は自宅で迎えたい」、と望まれる方々のために、在宅療養をお手伝いさせていただく事を主な目的としています。

大学医学部を卒業後、大学医局、各地の病院、海外で、初期臨床研修、一般臨床、専門臨床、予防医療、研究などに幅広く関わって参りました。そして、様々な患者さんに接し、たくさんの死にも立ち会って参りました。そうした経験の結果、医師としての原点である「町のお医者さん」として、私を直接必要としてくださる方々に対して、身近にあって在宅療養が出来るようお手伝いをしていくことを、これからの医師として活動の中心に据えたいと考えました。

診療方針は、「患者さん、ご家族に誠意を尽くすこと」です。内科、循環器科、外科など様々な診療科の専門医資格が、標榜される今日ですが、「患者さん専門医」として、その患者さんにとっての一番の専門医となり、良い医療を提供出来たのか、十分誠意を尽くしたと言えるのか、常に自分に問いながら、皆様に必要とされる存在になれるよう頑張っまいると思えます。どうぞ、宜しくお願いいたします。




サン メディカルクリニック

在宅医療のご相談・お問い合わせ

 **042-788-1170**

医療相談員 かたさき

在宅ホスピスのご相談・お問い合わせ

 **042-788-1231**

在宅療養支援 相談部 やまもと

「サン メディカルクリニック」の名称の由来

お日さまの「sun」ではありません。
サンは「SAN」、「エス エー エヌ」です。
家族4人のうち、3人の名前のイニシアルを並べたもの。
そして残った一人の誕生日に、このクリニックは開院しました。
これで家族全員が円満です（笑）。
交直なようですが、「和」を重んじて一生懸命考えてつけた名前です。

〒194-0011

東京都町田市成瀬が丘2-2-2 ワタヤビル3F
アクセス：JR横浜線成瀬駅南口 徒歩30秒

医療機関の連携について ～そもそも連携ってなに？～

町田市民病院 地域医療係について

地域医療係は、前方連携（紹介患者予約受付等）を担う地域医療連携室と、後方連携（退院支援等）を担う医療相談室で構成されています。

1. 地域医療連携室

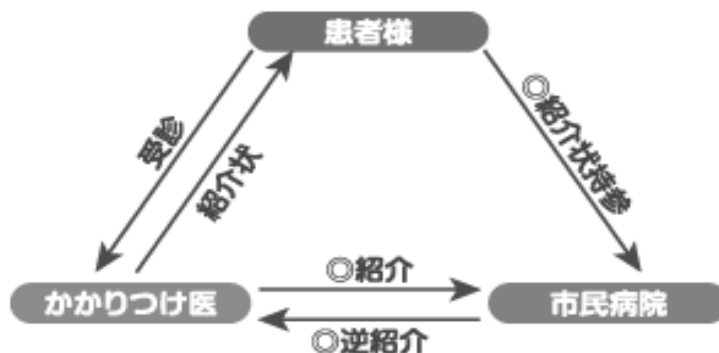
常勤職員2名と非常勤職員1名

☆地域医療連携室の主な業務

- ①地域医療機関からの紹介患者の受診予約に関すること
- ②地域医療機関からの転院、救急受け入れ相談に関すること
- ③紹介状、返書の管理に関すること
- ④地域連携パス、周産期ネットワークの事務に関すること
- ⑤病院ホームページの運営・管理に関すること
- ⑥医師会との連絡調整に関すること
- ⑦地域連携に関する統計管理に関すること
- ⑧その他地域連携に関すること

☆地域の医院・診療所（かかりつけ医）と町田市民病院の役割

町田市では、地域の医院・診療所（かかりつけ医）と町田市民病院の役割を分け、患者様の症状に応じた適切な医療を提供したいと考えています。それぞれの役割について、かかりつけ医は患者様の初期診療や健康管理などを担い、町田市民病院は高度医療や専門的な検査を担うことだと考えています。この考えに基づき、町田市医師会と町田市民病院では、医療連携協定を結んでいます。



2. 医療相談室

医療ソーシャルワーカー5名（非常勤1名）
看護師2名（非常勤1名）

☆医療相談室の主な業務

病気やけがをされると、さまざまな心配事や不安が生じることがあります。

「医療相談室」では、このような場合に患者様やご家族の相談・援助を行い、必要に応じて、地域の相談機関につないでいます。

例えば・・・

医療費の支払いなど経済的な不安がある
身体障がいや難病で利用できる制度を知りたい
健康保険、年金などの制度を知りたい
介護保険制度の利用や、退院後の在宅サービスについて知りたい
病院や施設について知りたい

☆相談時間

平日（月～金） 9：00～12：00 13：00～16：00 《予約制》

☆相談方法

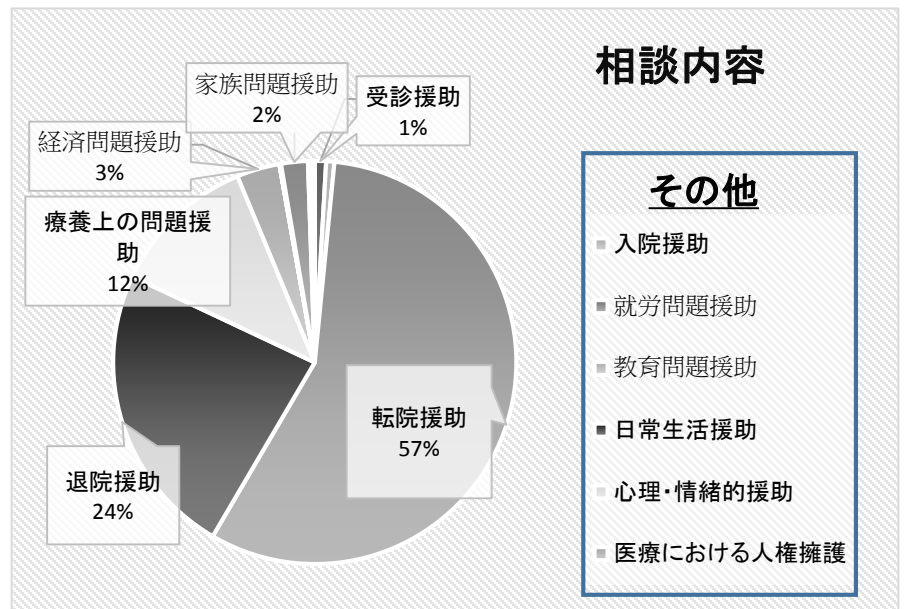
入院中の方は主治医もしくは病棟看護師へ、外来の方は主治医もしくは外来看護師にお申し出ください。相談は予約制です。

【2012年度相談件数】

年間相談件数は941件

相談内訳(科別)

診療科	相談件数
内科	377件
脳神経外科	162件
整形外科	83件
その他	319件
合計	941件



※相談内容は、年間相談延べ件数からの算出であり、上記の年間相談件数とは異なります。

緩和ケア病棟とは？ ～市民病院緩和ケア病棟の紹介～

日本人の平均寿命の伸びとともに癌にかかる人も増加しています。最近の統計では、一生のうちに二人に一人が何らかの癌にかかり、三人に一人が癌で亡くなっています。今後、さらに高齢化の進展が予想されるため、癌医療の一層の充実を図ることが求められております。

これまでの癌医療は、手術や抗癌剤による治療に重きが置かれ、精神や肉体の苦痛への対応は充分だったとは言えません。このような現状の下、平成19年4月に「がん対策基本法」が施行され、緩和ケアが重点課題のひとつに掲げられています。

緩和ケアとは、癌患者の苦痛を取りのぞき、患者と家族にとって、自分らしい生活を送れるようにするためのケアです。緩和ケアは癌治療を充実させる大切な治療の一つであり、癌による苦痛が緩和されることによって穏やかな時間が取り戻されることを目標とします。これまでは緩和ケアに関するイメージとして、「終末期癌患者のみの特別な医療である」とのやや誤ったものがありました。実際の緩和ケアは終末期のみの患者だけを対象とするものではなく、癌を持つ患者とその家族にとって普通に必要とされるものです。今後は緩和ケアが癌治療の一部であることへの理解とその必要性がより一般的になることが必要であると考えています。

今回は、緩和ケアに関する理解を深めていただくことを第一の目標としています。同時に、市民や地域の皆様が緩和ケアを必要とした時のため、どのような病棟であるか、どうしたら利用できるかといった内容の紹介をいたします。

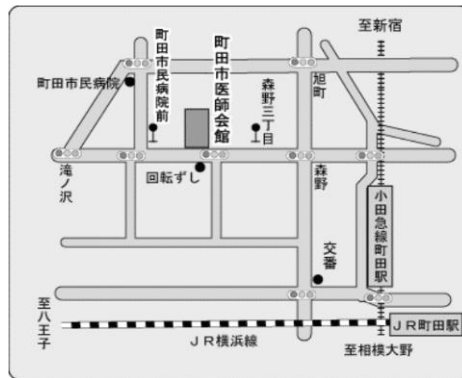


川崎 成郎 (かわさき なるお)

現職 町田市市民病院 外科 緩和医療専任担当部長
略歴 1994年慈恵医大卒業
1999年慈恵医大助手(外科)
2002年慈恵医大大学院卒業
2008年慈恵医大助教(外科)
2009年聖マリアンナ医科大学講師(救急医学)
2009年慈恵医大非常勤講師(外科)
2012年国際医療福祉大学准教授(外科)
2013年より現職

町田市医師会・町田市民病院 紹介

町田市医師会

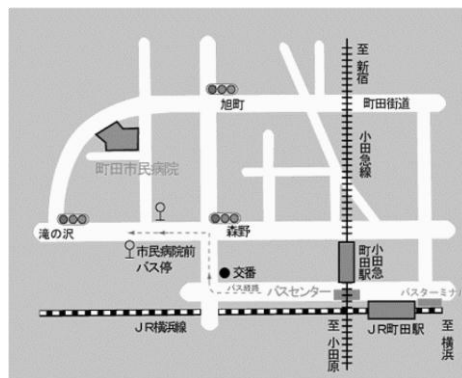


町田市医師会は昭和47年に設立され、町田市の発展とともに成長し平成24年には創立40周年を迎え、会員数は367名となりました。

町田市医師会は地域の公衆衛生の向上と福祉の増進に寄与する事を目的としています。そのため会員は日々の診療の他に各種事業を行っています。予防接種、健康診断、がん検診、学校医、園医、休日診療、準夜急患こどもクリニック、訪問看護ステーション、市民講座等を行政とも協力し行っています。

今後はこれまでの事業を発展させるとともに、災害時医療対策の徹底、在宅医療、がん検診の充実をはかり、また市民の皆様とのより良い連携を築くようにいたします。

町田市民病院



町田市民病院は昭和33年に設立された地域の開業医からの紹介で治療を行う二次医療機関です。平成20年には新病棟（南棟）の使用が開始され、現在はベッド数447床の病院となりました。

町田市民病院は「患者さま中心の医療」・「安全で良質な医療」・「地域社会に貢献する医療」の3つの基本理念のもとに運営を行っており、今後も公的な基幹病院として市民の皆様と地域の開業医などと良い関係を築き、町田市の医療に貢献できるように努めてまいります。

